

## 11. 『透かし』での探巢・・・

一般に大型スズメバチやヘボの巣を見つけるのに、『紙縫り』を付けて飛ばす方法(所謂蜂追い)と、『透かし』の方法がある。この方法を、夫々、単独で試みたり、コンバインしてやったり、蜂狂、夫々の技量によって違う・・・vは、大概、双方使って違う・・・何れであっても、見付けた瞬間は嬉しいものである。古希を迎えても、見付けた時はニヤニヤするから自分でもどうかしていると思う・・・まして、お他人様が見ていけば、『あの爺さんチョイとオカシインじゃーない・・・』何て思われても不思議ではない・・・それ程の喜びようである・・・

何時も一人でラジオを聴きながらノンビリやっているので、見付けた後は、冷えた缶ビールで乾杯する事にしている。別にノルマがある訳でも無いが、目標：2巣/日を目安にしているので、朝方ゲットすると肩の荷が下りる。

目標をクリアーし3つ、4つ、5つと多い日には、帰宅の足も自然と軽やかになる。

先ず、<sup>かみ</sup>上さんに『今日は5つだったあー・・・』と報告する。『<sup>すご</sup>凄いじゃん!!・・・』。

『まああねえー』。年を取っても蜂狂爺は、極めて単純なのである。

9月も中旬を過ぎると、『ヘボ獲り』の最盛期に入る。働き蜂の数が急激に増えるので、『トバシ』から、通称よく言われている『透かし』が出来る時期になる。

『透かし』には、特別のノウ・ハウが必要だが、『ヘボ』の習性を熟知していれば、それほど難しい事でもない。

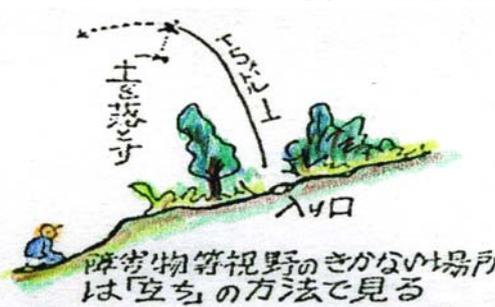
ここで、極楽蜻蛉・我流の『ヘボの巣の見つけ方』を紹介したいと思う。

『ヘボの巣の見つけ方』には、6通りの方法がある。

1) トバシ 2) 透かし 3) 通し 4) 立ち 5) 叩き 6) 『グレ』\*透かし である。

vは、ケース・バイ・ケースで、この6つを組み合わせる『ヘボ』の巣を探す・・・

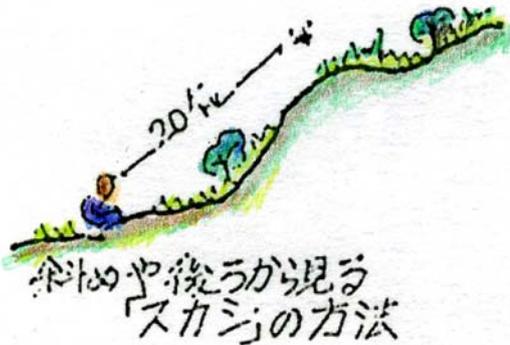
で、透かしとは? 下手な漫画で恐縮だが、下の餌を見て頂きたい・・・



\*グレ：新女王蜂(♀)を求めて日当たりのいい梢や垣根でワイワイ色目を使い、屯している雄蜂(♂)の事。

### < 透かし >

『透かし』の中の『透かし』を・・・一般に、『透かし』とは、『透かし』、『通し』、『立ち』、『叩き』を総称して言っている・・・が、厳密には違う。



曇った日や雨の日に野原、田圃の土手、林の空間等からシャガンで斜め後ろから上空を見上げ、『へボ』の通いを掴む。慣れて来ると30~40m先まで見える。曇りの日は、背景がグレイなので、黒い『へボ』は、実に良く見える。巣の近くだと土や餌を抱えているのさえ見える。土を途中で落すような『へボ』を見れば、もう占めたもの・・・詰めは、

『立ち』を使う・・・『トバシ(へボ追い)』で大体の方角を採り、詰められない時、『透かし』を使うと効率がいい。『透かし』で詰められない時は、飛ばした場所からの延長路線を先へ、先へと透かしていく・・・

『透かし』のポイントは、飼い蜂をよく観察し、習性を飲み込む事だ。

### < 通し >

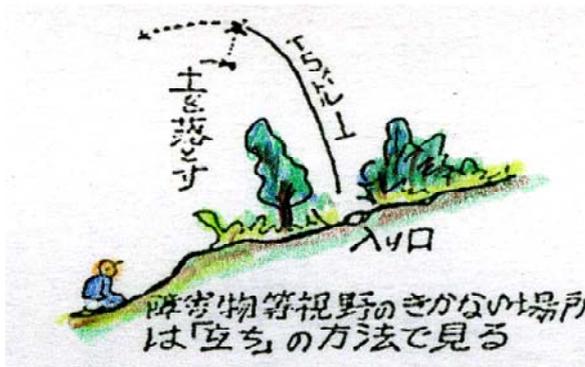
『透かし』とは裏腹の関係にある。『通し』は背景が、暗く、そこに日が当たっているような場所で使う。晩秋、朝、夕、弱弱しい日差しが斜めに差し込む場所、お日様に向って薄暗い借景を見る。日の当たっている場所を『へボ』が通ると、翅が光って、実に、よく見える・・・『へボ』はジグザグには飛ばない。スーッと糸を引くような光線を追う・・・この翅の出所を突き止め、『透かし』と『立ち』で

仕留める・・・Vは、この手法をよく使う。取分け、溪谷等の狭い谷合で使うと、極めて、有効である。

### < 立ち >

晩秋、『へボ』は巣から出ると、略、垂直に立ち上がる。状況にも依り、若干異なる事もあるが、巣から出た『へボ』は土を啜え、水平方向を向いて高度飛行を採る。この『へボ』が、仮に1匹でも出れば、巣は、必ず、その直下にある。

従って、巣をゲットする最終的の詰めは、『立ち』で決める事が多い。



『立ち』で『へボ』を見る場合、下等見ていてはいけない。首が痛くなるが、真上の樹間、隙間・空間を見なければならない。実際には、『透かし』『通し』『立ち』を単独で決める事は少なく、この組み合わせで、手を変え、品を変えして、瞬間的な閃きと現状把握の試行錯誤で追及していく。工場で使う、QC手法は実に効果的だ。

### < 叩き >

この方法は余り一般的ではないが、生い茂った蔓草等の中に巣のある事が解っていても、出入り口が全く解らない場合がよくある。こんな時、思い切って蔓草を退けて



やると数時間から1日近く外役の働きはワイワイするが、やがて落ち着き、巣穴が判る。また、巣の近くに障害物があると、その上空で外役の働き蜂がワイワイして、巣の存在を教えてくれる。

よく田圃や畑の土手草刈、スキー場の草刈、また山の下草刈等した後、その場に偶然出合い、へボがワイワイしている場面に直面し、思わぬ拾い物をする事があ

る。これ等の方法を『たたき』と称している。

『へボ』は非常に几帳面、且つ、賢い昆虫でルールを忠実に守る。しかし、融通性に欠ける。この習性が災いの元となり、天敵に巣の在り処を教える事にもなる。

### < グレ透かし >

晩秋、良く成熟したコロニーでは沢山の女王・雄蜂を産出する。交尾活動については次で詳しく述べるが、雄蜂(♂)は、女王(♀)より幾分早く外に出る。

そして、女王(♀)の離巢(飛来)を待つ。♂は、決まって、木の梢の日溜りでワイワイ、ガヤガヤ行ったり、来たり早を探して徘徊行動をとる。このような♂を信州・諏訪地方では『グレ』と呼んできた。グレの居る所には必ず『へボ』の巣がある。

特に、♂が、沢山、徘徊している近くに巣がある事が多い。

このような場所で『透かし』『通し』『立ち』の術を駆使してへボの巣を見つける事を「グレ透かし」と呼ぶ。この方法は効率も良く、大きい巣を見つける事が出来るので、へボの巣を見つけるのには、極めて、有力な手段である。Yの親父は、この術に、別格、長けていた。

しかし、晩秋、11月も後半になると、こうして苦勞して巣を見付けてもオケラの事が多い・・・無理して振り上げるより、其の俵にして置いてやる方が翌年の為になる・・・

